

みかんの流通と

問題点について

広島県果実農業協同組合連合会参事

秋山 広光

はじめに

近年のみかん生産は、量の急増を予測しながらも、気象災害、隔年結果などにより、生産量は期待したほど伸びておらず、販売価格面は生産量の伸びなやみに支えられ、順調に推移している。

しかしこのような状態でのみかん販売は、あくまで結果論でしかなく、われわれが設定した目標からは、ほど遠いといっても過言ではない。

4～5年前から消費の拡大をはかる考えから、うまいみかん作り運動を展開してきたが、みかん本来の味を作り出すことはできていない。

また量においても見誤りが大きく、産地は出荷体制の安定をかき、消費地は不安定な入荷によって輸送、卸売業者を困らせている。

特に45年産みかんは、生産量の見誤り、着色遅れ、さらに味の悪さは、消費に対応したみかん販売とはいえず、生産者の期待はずれとなった。

ここ数年来、横ばい状態を続けてきたみかんの生産量も、現在の栽培面積からみると、ある程度条件が揃えば、何時でも300万トンを超える要素は充分にある。

生産量の増加は消費者の選択買いを強め、さらに産地間競争は一層激しくなる。今後におけるみかんの流通は、食生活の急速な高度化・多様化に対応し、自から混乱を招かない体制の整備を急がねばならない。

1. みかんの生産と消費動向

近年における果実消費の動向を総理府家計調査によってみると、表1のように果実全体では、昭和35年に1人当たり約25kg購入していたが、44年には約40kgと1.6倍の伸びとなっているが、みかんについては、35年の6.5kgから44年には約14kgと倍以上の伸びになっており、みかんの消費は他果実に比較して順調に伸びている。

しかし今後生産量が急増した場合、この状態で推移するかどうかについては、お互いに疑問を持つところである。

表1 果実の1人当たり年間購入数量(全都市)

年次	みかん	夏みかん	りんご	なし	かき	ぶどう	すいか	もも	バナナ	その他	計
35	6.522	1.514	5.778	1.635	1.278	0.980	4.831	—	—	2.327	24.865
36	6.819	1.240	6.085	2.144	1.278	0.966	4.139	—	—	2.544	25.213
37	6.408	1.170	6.124	2.067	1.983	1.051	3.158	0.587	—	2.271	23.819
38	6.940	0.886	6.376	2.131	1.072	0.834	3.122	0.591	—	3.237	25.188
39	8.748	1.559	6.689	2.324	1.560	1.167	3.476	0.851	—	4.437	30.840
40	10.476	1.887	6.079	2.284	0.934	1.249	3.238	0.882	2.178	2.623	31.826
41	11.095	1.750	6.091	2.514	1.138	1.126	4.032	0.982	2.536	3.139	34.403
42	12.208	1.525	5.730	2.794	1.601	1.464	5.160	1.239	2.971	2.823	37.515
43	13.558	1.435	5.629	2.863	1.166	1.300	5.047	1.148	3.730	3.047	38.923
44 概算	14.324	2.035	6.004	3.001	1.255	1.107	4.112	0.966	4.365	3.076	40.245
比	26.2	6.1	23.2	6.6	5.1	3.9	19.4	—	—	9.5	100
36	27.1	4.9	24.1	8.5	5.1	3.8	16.4	—	—	10.1	100
37	26.9	4.9	25.7	8.7	4.1	4.4	13.3	2.5	—	9.5	100
38	27.6	3.5	25.3	8.5	4.3	3.3	12.4	2.3	—	12.8	100
39	28.4	5.1	21.7	7.5	5.1	3.8	11.3	2.7	—	14.4	100
40	32.9	5.9	19.1	7.2	2.9	3.9	10.2	2.8	6.8	8.3	100
41	32.3	5.1	17.7	7.3	3.3	3.3	11.7	2.9	7.4	9.1	100
42	32.5	4.1	15.3	7.4	4.3	3.1	13.8	3.3	7.9	7.5	100
43	34.8	3.7	14.5	7.4	3.0	3.3	3.0	2.9	9.6	7.8	100
44	35.6	5.1	14.9	7.5	3.1	2.8	10.2	2.4	10.8	7.6	100

(注) 総理府「家計調査」による。35～39年はその他にはバナナ、いちごを含む。

たとえばアメリカでは、かんきつの場合、1968年の生果としての消費量は11.9kgと20年ほど前の消費量に比べて約半分に減少し、かんきつ類の消費は冷蔵または缶ジュース、最近では冷凍ジュースで消費される比率が高く、43年にはかんきつ全生産量の66%が果汁につぶされている。

わが国における食生活も、洋風化が進みつつあるなかで、今後増加するみかんの消費拡大をはかるためには、生果の消費拡大に努力することはもちろんであるが、加工原料としての消費に特に力を注がねば安定はむずかしい。

果実の需給長期見通しでは、昭和51年には365万トンの生産量が見込まれ、栽培面積は168,000haとなっているが、農林統計によると45年にはすでに163,000haに達しており、今後も増産が進めば、生産量は400万トンに達することは容易である。

みかんの最需要期に当たる12月に消費されるみかんの割合は約36%であるが、もし365万トンの生産量になった場合、生果で消費される割合を75%とみて、12月の消費量は985,500トン、5千万の人間が毎日636g(M級6～7個)を消費しなければならない計算になる。

これだけの量を、満足な状態で売りさばくため

には、現在生産量の12~13%の加工原料消費を最低30%程度に引上げ、生果での販売は、多くとも250万トン程度までにとどめ、まず市場価格を安定させるべきである。

2. 今後のうまいみかん作り運動への提言

国民経済の安定とともに、食生活は著しく変化し、果物消費の伸びも著しい。時代の要求にそってみかんの生産意欲は高く、栽培可能地の極限に達した。栽培地域が拡大すればするほど、みかん1個1個に個性をもったものが生産される。

しかし現在のみかん販売は、この個性をいかした販売がなされているだろうか。もちろん、すべての産地がそうだといっているのではない。

問題は、7分どおり味の良い時期に出荷されても、残りのものが味の悪いものであれば、みかんの消費全体に悪影響を及ぼすということである。

表2は東京市場における、代表産地の価格推移で、価格推移の中で、太線は主要県において価格が市場平均を上廻っている時期を示している。

この表でみると、愛媛県を主体とした価格形成

が10月から1月の長期間にわたり、年明けみかん販売は山口、静岡に引続がれている。

このように、それぞれ産地ごとに品質の特徴を持っている。いかにしてこの特徴を、販売期間を通じて生かすうかがうかが、今後のみかん消費を大きく左右する。

要は、生産技術面での味の追究にとどまらず、最も味の良い時期に販売する努力も、うまいみかん作り運動として見逃すことはできない。

3. 出荷調整機能の強化

生産が需要に追いつけない時代は、お互いがそれぞれの立場で投機的な販売も許されたが、みかん農業全体が、自から生産過剰現象を予測し、出荷の大型化、近代化にとりこんでいるものの、産地間または対消費地における調整は不充分であり、また困難な作業であるが、出荷調整機能の充実は、早急に計らなければならない。

現在、日園連を中心に会員団体は6大市場はもとより、札幌、仙台、新潟、金沢の4大市場を加え、合計10都市を対象に計画出荷を実施している。

なかでも京浜市場については、42年から保証金制度を実施して成果をあげている。

しかし京浜以外は、日園連会員の統制力が不十分で、相場の変動に支配されやすく、徹底した出荷調整機能を發揮しているとは云えぬ状態にある。

農林省においても、出荷計画立案までの段階は、農協連、商協連または市場と連繫を計り推進されているが、実施段階に入っの指導は充分とはいえない。

ここ4~5年のみかん販売計画は、出荷直前になっての気象災害など、多くは他動的要因に支配され、不安定な販売に終始し、その間、市場は常に暗中模索の状態で販売を続けた。

生産の増大、外国果実の積極的な進出の前に、われわれのとるべき対策は品質の向上はもとより、生産者の団結、各団体の緊密な連繫をたもつことであり、関係機関の積極的な指導が望まれる。

表2 45年産みかん京浜市場旬別県別価格推移

単位上段価格比% 下段価格円

月旬	県	静岡	和歌山	広島	山口	愛媛	福岡	佐賀	熊本	平均
10	上	87.1 88	110.9 112			108.9 110	75.2 76	107.9 109	100.0 101	101
	中	118.8 101	112.9 96			108.2 92	101.2 86	97.6 83	94.1 80	85
	下	104.3 96	100.0 92			103.3 95	105.4 97	96.7 89	100.0 92	92
11	上	90.3 93	97.1 100	121.4 125	130.1 134	116.5 120	100.0 103	95.1 98	101.0 104	103
	中	86.2 75	95.4 83	111.5 97	95.4 83	119.5 104	95.4 83	92.0 80	96.6 84	87
	下	84.7 72	98.8 84	109.4 93	94.1 80	112.9 96	94.1 80	88.2 75	95.3 81	85
12	上	87.1 74	107.1 91	74.1 63	94.1 80	114.1 97	94.1 80	91.8 78	92.9 79	85
	中	91.3 94	111.7 115	98.1 101	94.2 97	107.8 111	92.2 95	92.2 95	94.2 97	103
	下	91.7 99	112.0 121	93.5 101	97.2 105	109.3 118	89.8 97	90.7 98	92.6 100	108
1	上	76.2 64	111.9 94	89.3 75	103.6 87	107.1 90	82.1 69	79.8 67	90.5 76	84
	中	83.0 73	85.2 75	86.4 76	105.7 93	108.0 95	88.6 78	85.2 75	95.5 84	88
	下	94.3 83	83.0 73	90.9 80	113.6 100	105.7 93	88.6 78	89.8 79	97.7 86	88
2	上	126.8 104	85.4 70	86.6 71	112.2 92	101.2 83	87.8 72	86.6 71	106.1 87	82
	中	121.7 101	107.2 89	86.7 72	106.0 88	97.6 81	85.5 71	88.0 73	112.0 93	83
	下	127.0 94	114.9 85	85.1 63	100.0 74	91.9 68	93.2 69	85.1 63	108.3 84	74
3	上	115.4 90	102.6 80	98.7 77	93.6 73	94.9 74	87.2 68	82.1 64	101.3 79	78
	中	110.4 85	94.8 73	81.8 63	66.2 51	98.7 76	80.5 62	84.4 65	83.1 64	77
	下	107.3 88	92.3 76		63.4 52	93.9 77	78.0 64	72.0 59	89.0 73	82
平均	92	103	90	90	100	87	83	91	92	

旬別市場平均価格 = 価格比
旬別各県平均価格

(日園連統計)